

## 俺に似たひと

著：平川克美／医学書院

定価：1,680 円(本体 1,600 円＋税)／TEL：03-3817-5657

■ひとり暮らしのおぼつかなくなった父親と、新たに家族として生活する「俺」の1年半の介護の日々の記録。戦後の時代を支えてきた親世代に、あまり敬愛の念をもたず大人になった団塊の世代。老いた父は、元来身体に備わっていたかのような「防衛機制(=せん妄)」を発揮し、徐々に終焉へと向かう。戸惑いながら、あたり前のように手を差し伸べ、和解を手にする「俺」の心の軌跡。

援助者必携

## はじめての精神科 第2版

著：春日武彦／医学書院

定価：1,995 円(本体 1,900 円＋税)／TEL：03-3817-5657

■初版から7年、「援助者としての我々の仕事はちっとも楽にはならず、むしろより厄介で戸惑う事例が増えつつある」(序文より)。読むうちに、「カスガ先生」の診察室の見学者か、相談者になったような、不思議な納得感に包まれる。「我々の武器は誠実・真摯・品性であると心得るべきです」(本文より)との姿勢に貫かれたエッセイのような1冊。ひとを援助する仕事に就いている人、必読!



看護師国試

## 必修チェック!

編：医学書院看護出版部／医学書院

定価：1,260 円(本体 1,200 円＋税)／TEL：03-3817-5657

■看護師国家試験出題基準に挙げられている用語を、簡略な文章で説明し、言葉を覚えるのではなく、内容を理解することを容易にしたハンドブック。国家試験問題に、「必修問題」「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「看護ケアのポイント」の4本の柱を立てて整理。試験開始時間ギリギリまでチェックに使えると同時に、日常の学習で学ぶ用語の理解にも必ず役立つはず。

JJN スペシャル

## これだけは知っておきたい 整形外科

編：細野昇／医学書院

定価：2,730 円(本体 2,600 円＋税)／TEL：03-3817-5657

■「本書は、整形外科に配属されて間もない看護師に、基礎から患者指導の実際を幅広く学んでいただくために企画されました」(巻頭言「本書を読まれるみなさんへ」より)。第一線の専門医が、平易な表現を用い、画像やイラストを多用してわかりやすく解説する。ポイントが「看護ケアの注意点」としてピックアップされているのもうれしい。ベテランナースや、医師の手順や知識の確認にも、「使える」1冊!



## 山内豊明教授のバイタルサインの測定 「呼吸, SpO<sub>2</sub>」「血圧, 脈拍, 心拍」「尿量, 体温, 意識レベル」



監修・指導：山内豊明／ビデオ・バック・ニッポン

定価各巻：30,450 円(本体 29,000 円＋税)／TEL：03-3405-3171

■フィジカルアセスメントの山内豊明先生が、その基本であるバイタルサイン、「呼吸, SpO<sub>2</sub>」「血圧, 脈拍, 心拍」「尿量, 体温, 意識レベル」の正しい測定方法を伝授。測定数値だけを重視することなく、五感を使ってバイタルサイン—生命の徴候—を感じ取ってこそ、患者の状態を正しく把握したことになる。目で見えてわかるフィジカルアセスメントの真髄。有用な教材として！

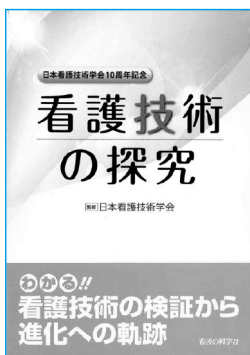
## いさぎよく生きる

仏教的シンプルライフ

著：大下大圓／日本評論社

定価：1,575 円(本体 1,500 円＋税)／TEL：03-3987-8621

■仏教伝来から 1400 年余り、仏教はいつの時代にもマッチする実践哲学だと、「こころの研修」活動で日本中を旅する大圓住職が、この生きにくい時代にこそ「いさぎよく生きる」という仏教の知恵でこころを整えようと、「シンプルライフ」へと読者を誘う。執着心を捨て去ることで得る心の平安やしあわせ感。生活のなかに、「ちょっと工夫して仏教ライフ」「(おわりにに)より」を取り入れてみませんか。



日本看護技術学会 10 周年記念

## 看護技術の探究

監修 日本看護技術協会／看護の科学社

定価：2,100 円(本体 2,000 円＋税)／TEL：03-3943-0244

■「看護の技、すなわちその科学性(Science)と芸術性(Art)を掘り下げ、探究し、その神髄を見極めたいという熱い思いを掲げて活動してきました」(巻頭言「看護の技を探究するという歩みを進めて」より)の言葉どおり、看護の技(わざ)を可視化し、記録し、伝え、有効性を実証してきた同学会。その足跡を知ることは、これからの看護が果たす役割と、その方向性を見据えることにつながる。

## がん看護へのことづて

著：武田悦子／すびか書房

定価：1,260 円(本体 1,200 円＋税)／TEL：048-464-8364

■著者は元看護師、元看護教員、そしてその後は食道店主だった。乳がんの発見から 3 年余りで亡くなるが、闘病生活を続けながらもリンパ・ドレーナージの研修を受け、リンパ浮腫の患者のためにサロンを開く。いつも前向きに、いつも看護の心をもって生きた著者の、看護師への「ことづて」。彼女の患者経験から発信される言葉は、具体的でありながら、真を衝いて読者の心にストレートに届くはず。

